

山崎

山崎

其のちたてて腹をいりてその所は打のまじりてはすそをいりてあり
 さやのぬいすんれ侍者一人もたおせむい事あるはくたの目もあはれ
 るまゝのなまゝ一も教のまじりてあはれなまゝのなまゝあはれまゝ
 人かたおたせまゝいりてあはれまじりてあはれまゝいりてあはれまゝ
 様ならぬはくたはくたのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 小た一國者必要のまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 ちもあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 者の一もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 けあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 是もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 故もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 一もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ

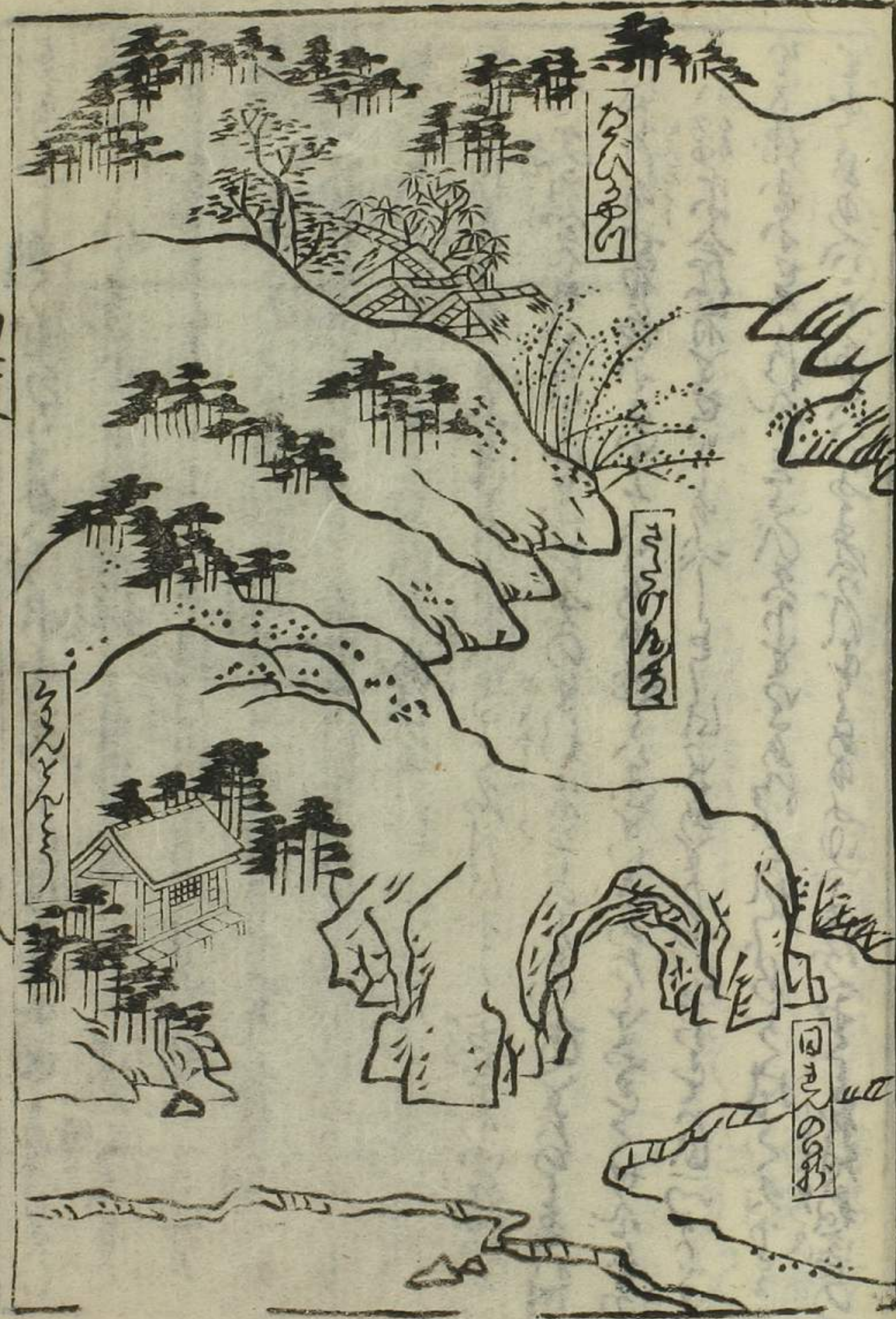
其のちたてて腹をいりてその所は打のまじりてはすそをいりてあり
 さやのぬいすんれ侍者一人もたおせむい事あるはくたの目もあはれ
 るまゝのなまゝ一も教のまじりてあはれまゝのなまゝあはれまゝ
 人かたおたせまゝいりてあはれまじりてあはれまゝいりてあはれまゝ
 様ならぬはくたはくたのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 小た一國者必要のまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 ちもあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 者の一もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 けあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 是もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 故もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 一もあはれまゝのまじりてあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ

一傳ありて作せしむる義ありてのいふこと時政ははるた中春
あつた車政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
とて後世に傳へしゆのいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
元二年八月十日相加村の息女也とていつせあふ政
比全別及びよの濃なる其のたつとていつせあふ政
一頂よりとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
中あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
る相を証金とていつせあふ政
あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
一とていつせあふ政
あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政

一傳ありて作せしむる義ありてのいふこと時政ははるた中春

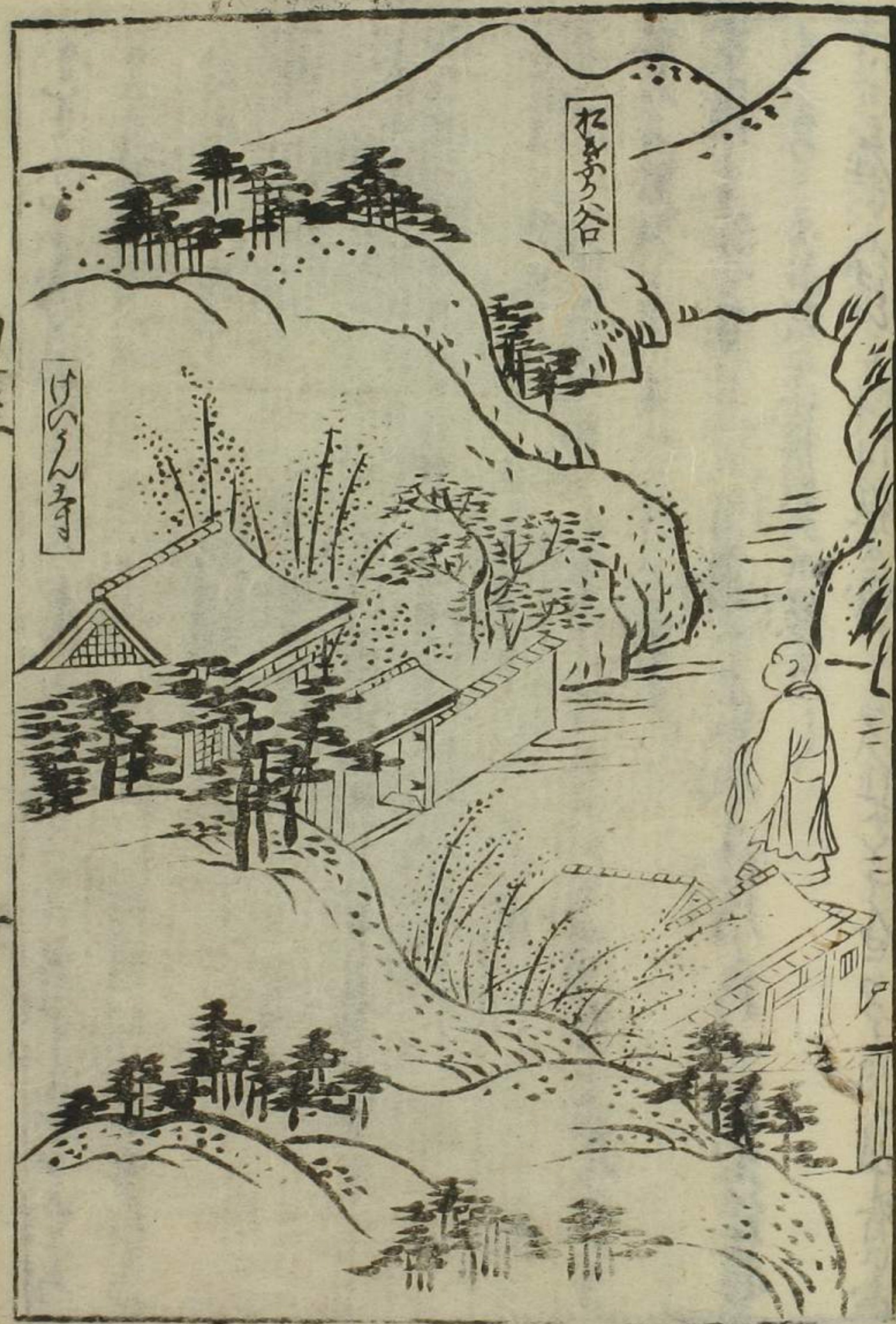
一傳ありて作せしむる義ありてのいふこと時政ははるた中春
あつた車政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
とて後世に傳へしゆのいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
元二年八月十日相加村の息女也とていつせあふ政
比全別及びよの濃なる其のたつとていつせあふ政
一頂よりとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
中あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
る相を証金とていつせあふ政
あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政
一とていつせあふ政
あつたとて政のいふ事いはずの儀宗は世とていつせあふ政

一傳ありて作せしむる義ありてのいふこと時政ははるた中春



かひのり

かひのり



合とくふふすまをわらふうかあしとあひつらむくまはとくまのあ
あふまはつひつひつとあふまはとくまのあひつらむくまはとくまのあ
はつひつらむくまのあひつらむくまのあひつらむくまのあひつらむくまのあ

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

一松山寺 松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり
松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

松山寺の南の山にありて松山寺と云ふなり

十月廿三日の晩とてあつたとき初めいし着のりまゝ

別れたかよそとあつたといふ事ありあつた

ちあつたといふときつらふか

一 名越 二 園よりあつたはたは林と見ゆるといふは

一 名越の園より一丸をとりたすめ

一 日蓮上人七水 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

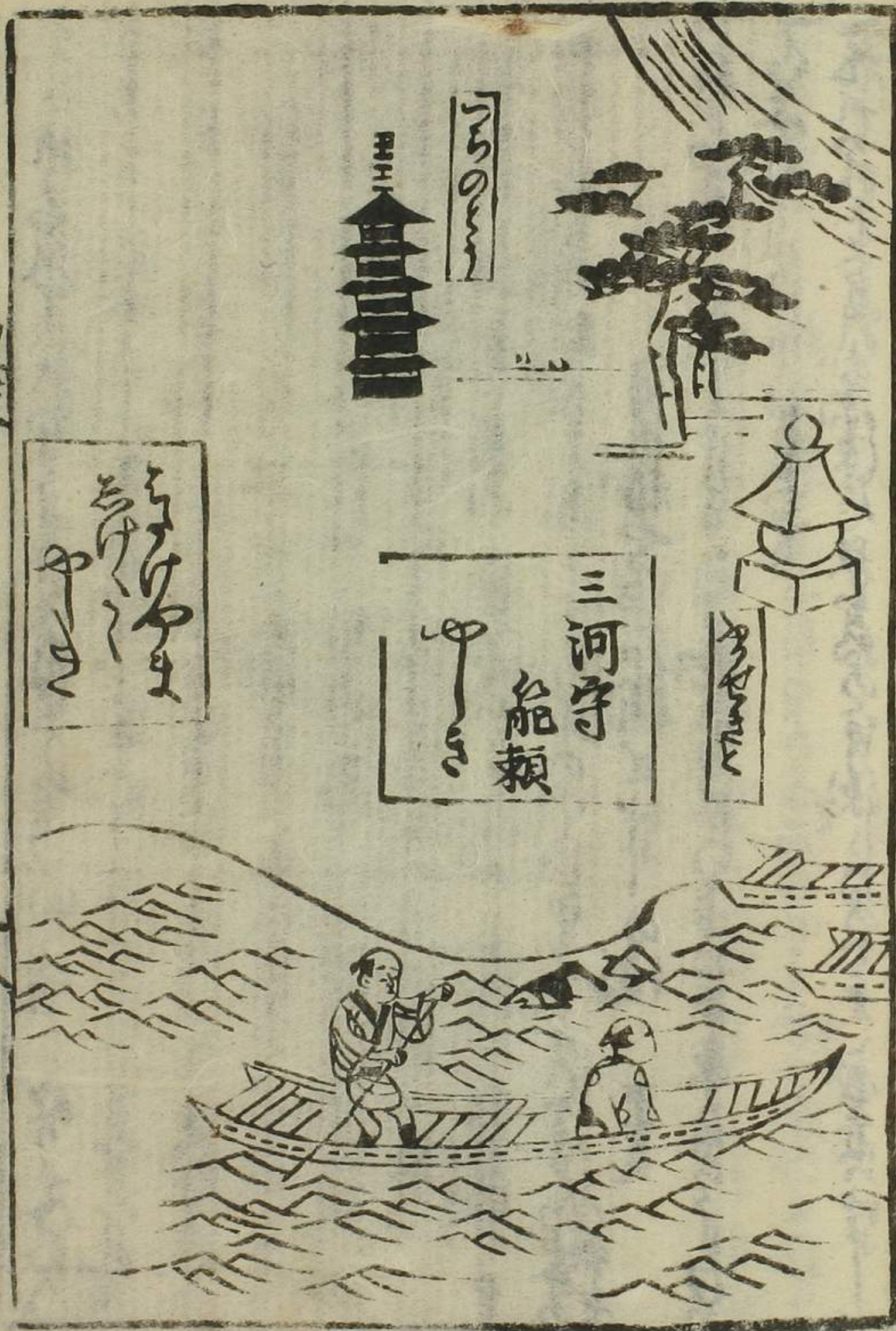
一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは

一 名越の園よりあつたはたは







三河守
船類

三河守
船類

三河守



三河守

鎌倉地籍書才四目錄

頼朝御成金

多合系

三浦の後の御成金

大系系

持長御成金

柄柄天孫

富山御成金

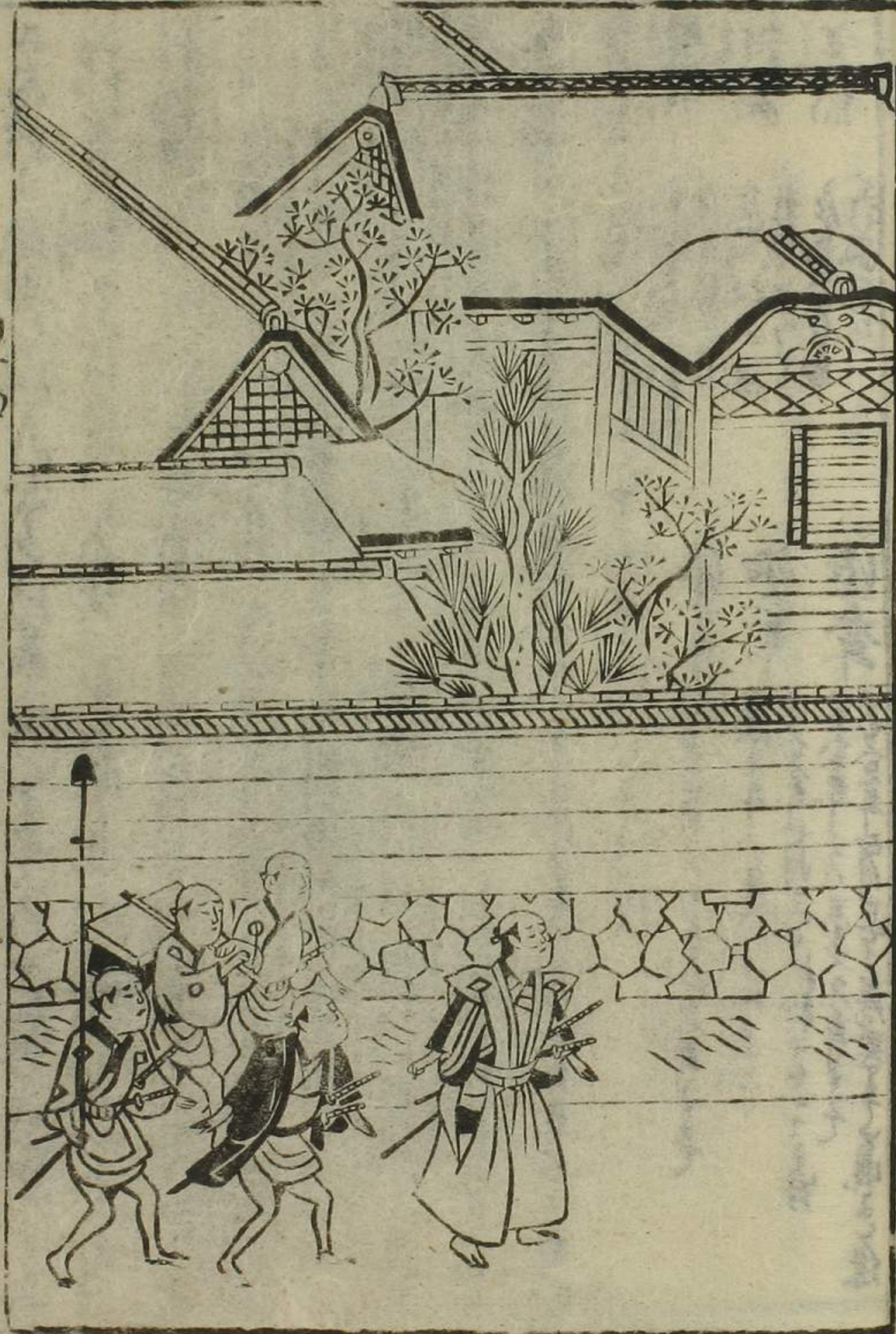
西御成金

法親堂

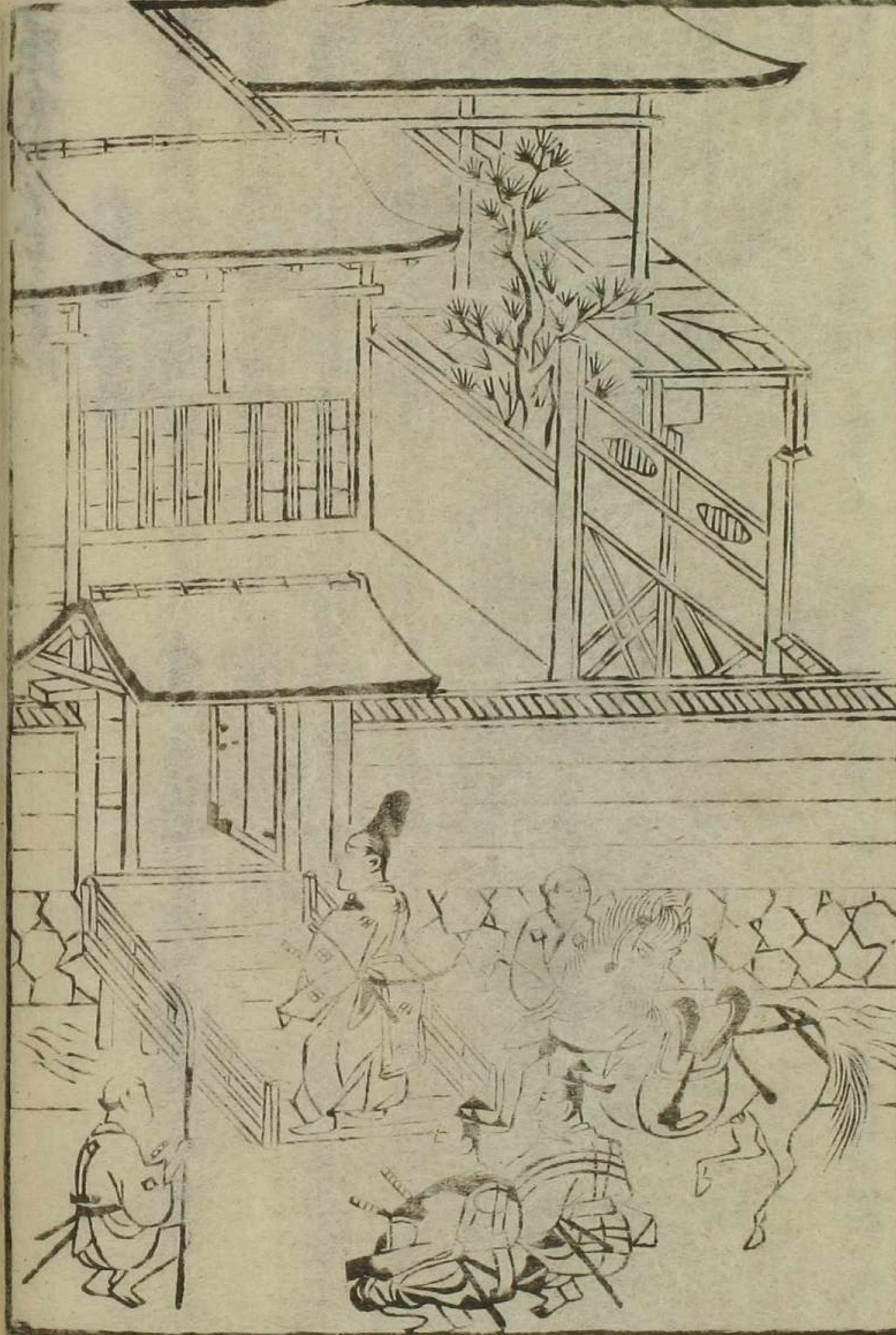
支子御成金

秋也御成金

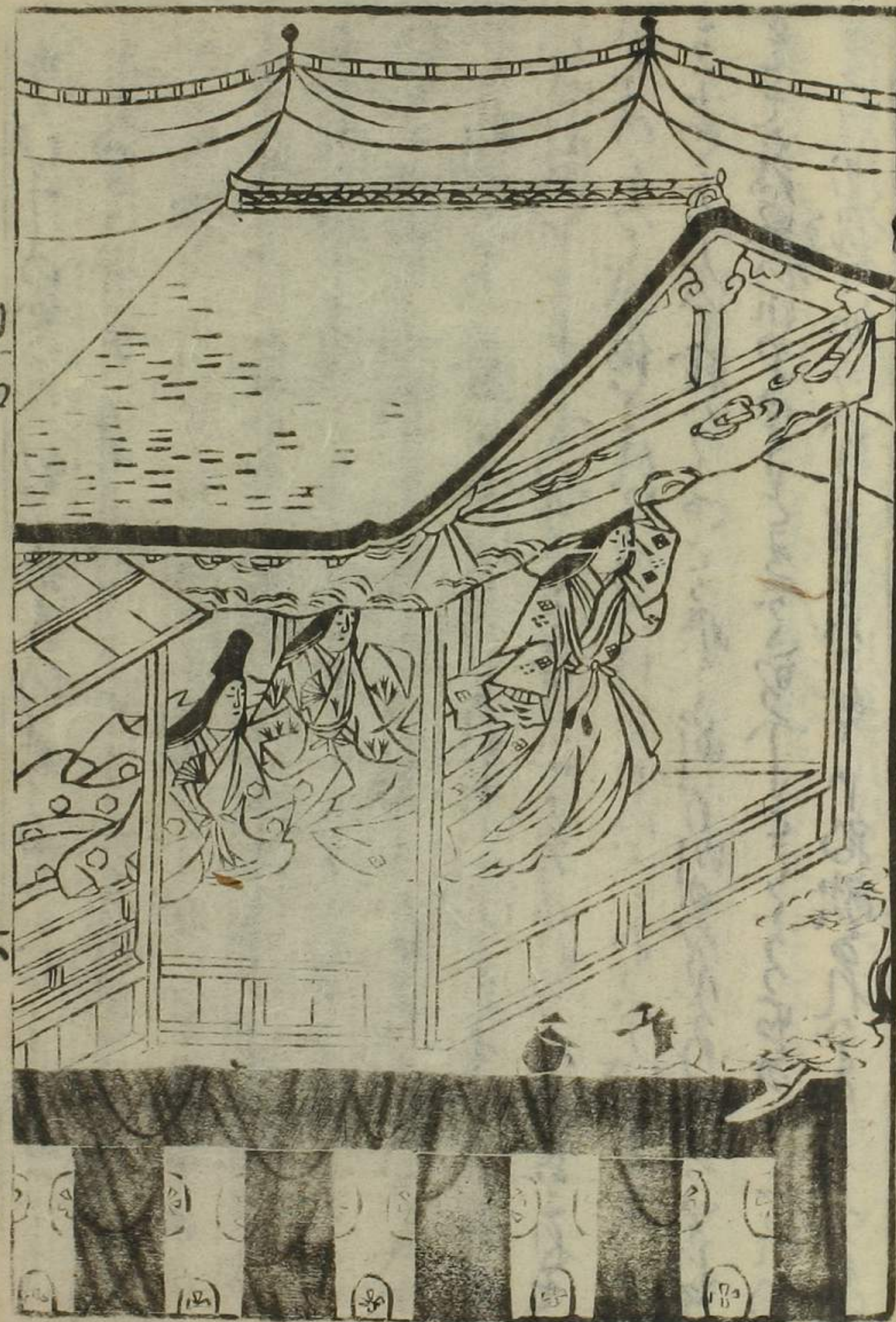
大系御成金



力
六
四



水
六
四





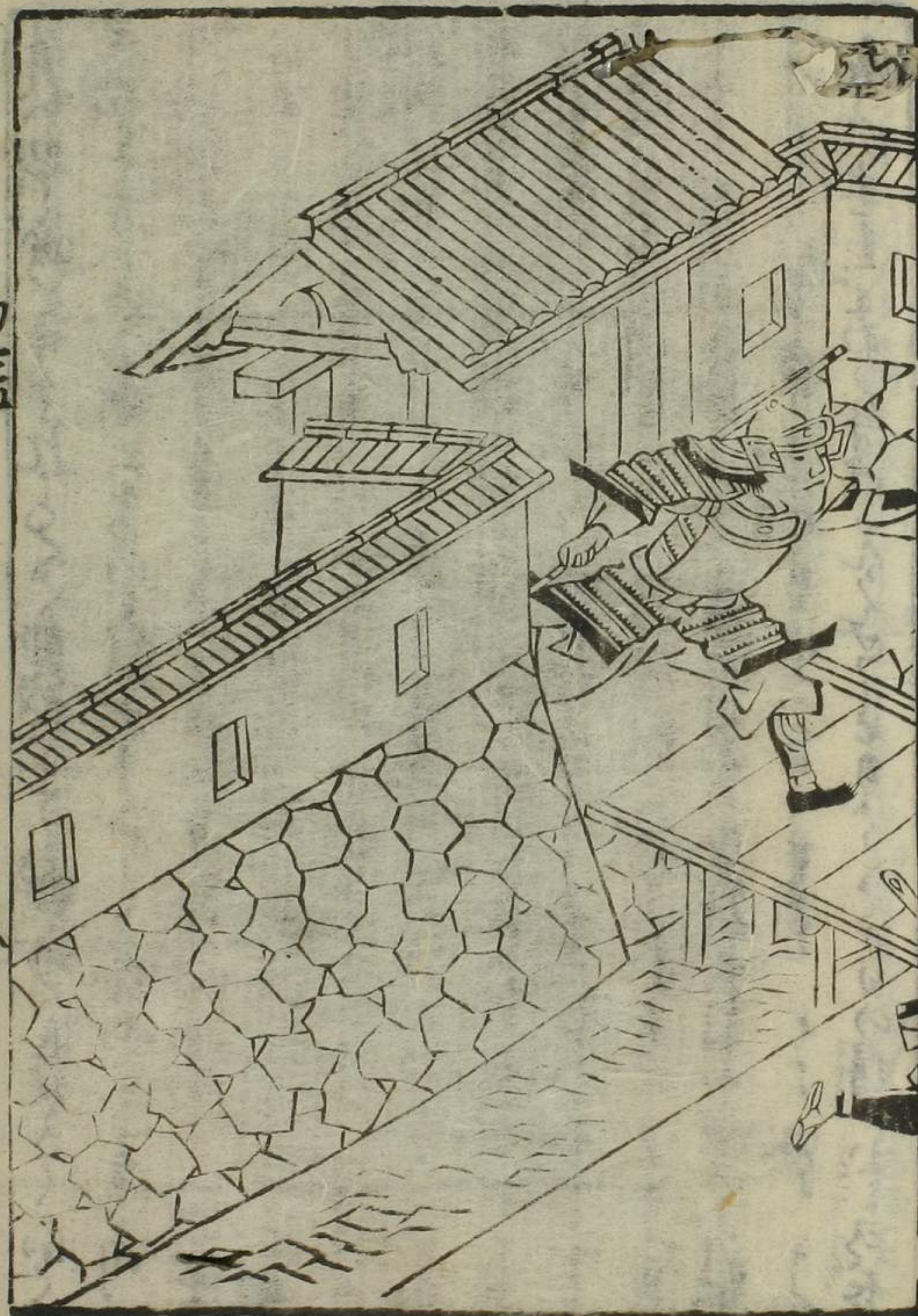
足の間に長城候大なるけしとあらはけりてその故なきありけり
 寺門はくまのあり及長安の郡司公はきくしとておのゝり候ふのみ
 在ればさうらとんたう今派を派板としつゝは候のそはけり
 くのろけりありてしとて思ひのそはけりしけりしと云ふ
 一 秋想の器 ちとるあきありけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 冬かくま せんやとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ
 一 一多の寺の長居ありしとて思ひのそはけりしとて思ひのそはけりしと云ふ

鎌倉地志書之目録

鎌倉地志書之目録
 一 大倉の寺
 一 永福寺
 一 松中観音
 一 浄心寺
 一 宅間寺
 一 佐々木屋敷
 一 基石屋敷
 一 又大堂
 一 浦頃

一 大膳文右衛門
 一 作子告
 一 衣谷山
 一 鎌倉大徳林
 一 清川
 一 長谷山
 一 堀原屋敷
 一 光快寺
 一 浦戸





わりのぬいぬい

常雨雨脚雲餘自未書

書る雨字と全くとて

あつたてぬいぬい

無徳かた

こころのぬいぬい

とてつれな素時因せられたるこころに治二年治述正のなを林とて

事なきのこころのぬいぬい

一階堂のぬいぬい

うごころとて比がぬいぬい

治二年十月九日

とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい

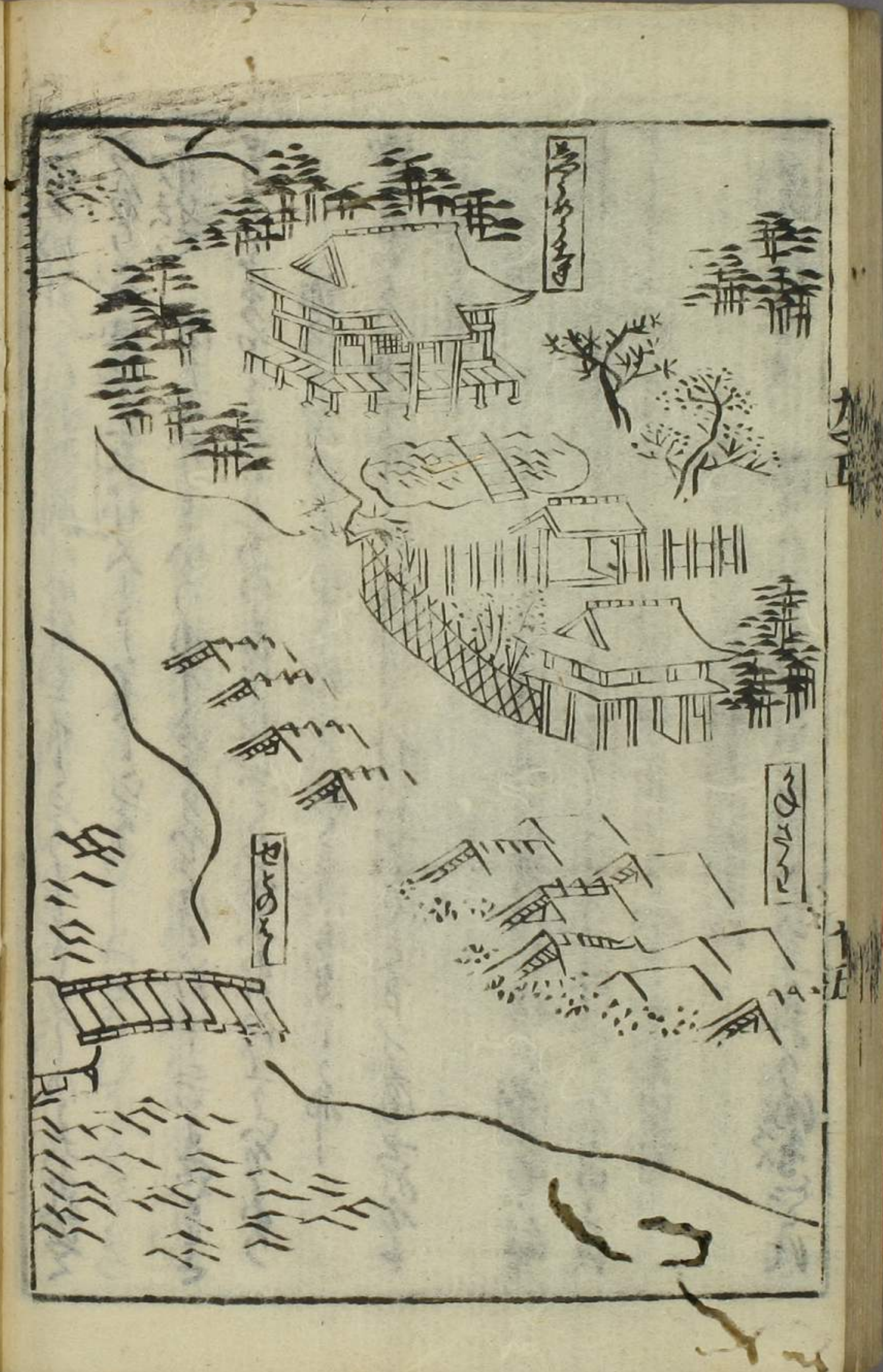
とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい

とてぬいぬい





後付しあり

公事なかりしに於ての事
公事納付し文乃月の朝

豊臣氏
日蓮春

徳念地巻之文紙

文字の事行きたるに似しよりのありし圖のれりみね
りしに似し十七りしに似しと申すことと申す
わらうしに似しと申すことと申すことと申す
きことと申すえわらうしに似しと申すことと申す
らんやと申すれりありしと申すことと申す
心儀と申すことと申すれりありしと申すことと申す
あはれりありしと申すことと申すことと申す
のしりしに似しと申すことと申すことと申す
のしりしと申すことと申すことと申すことと申す
しりしと申すことと申すことと申すことと申す

寶曆三申十二月求板

江戸日本橋

須原屋板行

中川存平著

